

尾之間老人クラブ谷崎会(屋久島町)

発表者：毛利弘行氏

およそ800名が暮らす屋久島尾之間集落を、もっともっと住みよい癒しの里にしたいと、そういう願いを持って、私たち尾之間老人クラブ谷崎会140名の会員は、ささやかな活動を続けております。その一端をご紹介します。

大きく分けると5つの項目にわたりますが、まず第1点、見守り活動のことでございます。その1つ、「隣近所見守り隊」というのを発足させました。後で述べます会報「悠遊長寿」を14名の役員が分担し合って配布します。効率よく配るために自然と隣近所の班、これを隊と呼びますが、班ができます。会報配布役員が、隊長になります。月1回ですが、各隊員に声をかけながら配布します。隊員同士は、常日ごろ顔を突き合わせている隣同士の仲間たちです。健康状態や生活上の問題を抱え込んでいないか、お互いに声をかけ合います。問題を感じたら隊長に報告し、相談に応じます。



小さな2番目になりますが、長寿誕生日訪問というのを行います。90歳以上の会員が誕生日を迎えたとき、三役を中心にして訪問いたします。該当者は8名であります。家族と同居している方が6名、施設に入所している方が2名おられます。男女ではそれぞれ4名ずつになっております。簡単なメッセージにささやかな一品を添えて贈ります。昔話になりますと会話が弾み、来訪を大歓迎してくれます。

次に、子どもの登校時立哨です。集落内からは、小学生が34名、中学生が12名通学しています。子どもの多かった時代、先輩たちは、毎朝登校を見守っていたようですが、児童生徒が減少した今は、月曜日だけの立哨補導となっております。

大きな2番目に入ります。会員の健康づくりについて申し上げます。その1番目、健康づくりグラウンド・ゴルフ大会及びゲートボール大会を実施しております。親睦を深め、楽しみながら健康づくりを進めるのであれば、やはり生涯スポーツとして開発されたこのグ



ラウンド・ゴルフとゲートボールであろうと考えます。体育部の企画運営によりまして、5月にグラウンド・ゴルフ大会、6月にゲートボール大会を開催しました。同じところで同じ弁当を開き、にぎやかに談笑しながら楽しんで参加してもらいました。

健康づくり研修会のことですが、過去には集落内にある診療所の医師、町内総合病院院長による医療講演等も実施しております。今年、スポーツ推進委員のゲーム感覚でできる軽い運動による実技指導を実施していただきました。会員大部分の皆さんが「楽しかった。またやりたい。」と好評でした。

町老人クラブスポーツ行事への参加です。9月にグラウンド・ゴルフ大会及びゲートボール大会が行われました。グラウンド・ゴルフ大会には、9チームが参加しました。これは尾

会報 悠遊長寿
第50号 平成25年9月30日
(50回発行記念)
尾之間老人クラブ谷崎会教養部

会報50号発行に寄せて
会長 毛利弘行



尾之間老人クラブ谷崎会では、65歳になると入会できることになっています。しかし、「クラブに入会すると行事が多く大変だ」「まだまだ老人と呼ばれたくない」「自分の仕事があるから行事に出られない」など、いろいろな事情で入会を拒む方が増えています。私は老人と呼ばれるまで生きながらえて来たことにまず感謝したい。そして身体的に老化傾向にある仲間と、精神的な若さを保ちながら老化現象を少しでも先送りするために努力したい。ここまでおかしな地域に幾分なりと貢献したい、こんな気持ちで日々を過ごしております。平成13・17年と会長職を務め、20年3回目の会長に就任。クラブの在り方を振り返る。スポーツ活動は盛んだが文化面の活動は低調。会員は協力的で年間行事計画もスムーズに消化できている。しかし同じ会員でありながら、参加できない会員には活動状況が伝わらない。活動内容・状況を共有することで全会員の連帯感も生まれる。このような反省から「会報 悠遊長寿」は、平成20年5月に産声を上げるようになったのです。片面でも、2か月に1回でも発行できればよいと思ってスタートしました。監事でありながら、教養部長を引き受けてくださった戸床頭先聖が、記事集めや投稿者の掘

り起しにとまに東奔西走。投稿者も増え両面刷り毎月の発行となりました。尊い体験や心に沁みる素晴らしい短歌など、文化面にも火が灯った感じもしました。面倒で煩わしい会報、やめることは簡単です。継続するためには大変な努力を要します。これが50回目の発行を迎えることができたのです。素晴らしいことです。関係者各位に感謝の気持ちで一杯です。尾之間老人クラブ谷崎会の誇りでもあり、会員の皆さんとともに喜びたいと存じます。でかしたぞ、谷崎会！！

100号は5年先位でしょうか。どんな会報に成長しているでしょうか。長生きして見届けたいものです。継続できるかどうかは、会員皆さんの会報を育てる気持ちの有無にかかっています。ご協力ありがとうございました！

会報記念号の発行に際して
教養部長 竹下 慎一



今日は、会員の皆様へ会報「悠遊長寿」の記念号第50号をお届けできることを、大変うれしく思っております。まずは記念号の発行をお慶び申し上げます。これも会員皆様方のご支援、ご協力の賜物と深く感謝いたします。ありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。さて、記念号の第50号という数字を見ると、改めてよくぞここまで来られたと、感慨深いものがあります。

そこでこの第50号の会報発行に当たり、一つのこと思い出されました。それは昭和47年度に鹿児島県で開催された太陽国体の時に、ときの県知事金丸三郎殿が「継続は力なり」と、県民に対して力強いメッセージを発せられたことです。県知事は、太陽国体の各種競技に出場する選手の皆様へ、夢と希望を持って競技に

尾之間の老人クラブから参加したチームです。他集落のチームが、7個ものホールインワンを出して優勝しました。この時は、尾之間チームは3位が最上位に終わりました。昨年は、優勝して県老連の大会にも出場しております。ゲートボール大会は、尾之間から6チームが参加し、尾之間のチームが優勝して県大会に出場しました。10月の老人スポーツ大会には、大勢の会員が参加いたしました。

大きな3番目になりますが、会報「悠遊長寿」を発行しております。超高齢化が進みまして、年

間行事計画に基づいて行う活動に参加できない方が年々増加してまいります。スポーツ活動は盛んですが、文化面の活動は低調です。遊び心でのんびりと日々を過ごし、健康寿命延長に努め、長寿を喜び合いたい。このような思いから、第1号を発行したのが平成20年5月でした。現在では、会員相互の交流の広場の存在として喜ばれております。

その編集会議は、4名の教養部員が担当して行います。毎月初旬に編集会議を開きます。内容は、その月の活動内容の紹介記事、次の月の活動計画。そして今年は「先輩に聞く、私の健康づくり」を年間通した特集記事として連載することにしておりますので、それを誰に依頼するか等について、この編集会議で話し合いを行います。



取材と原稿の入力のことです。中旬に取材活動、活動内容記事の執筆を行います。教養部長が全体を取りまとめ、パソコン入力者に依頼します。今年は、会長の私がパソコン担当で、慣れない仕事に失敗を繰り返しながら、発行日に何とか間に合わせるようにと頑張っております。入力を終えましたら、教養部員全員に目を通して校正をしてもらうことしております。

印刷と配布の仕方ですが、校正を終え、最終的にパソコンで出力した原稿を印刷担当の会計に渡します。安い経費で済ませるため、役場支所の輪転機で印刷します。毎月30日を発行日と定めていますので、それに間に合わせるように仕分けして役員に配布します。役員は自分の受け持ち会員に配布しながら、あわせて見守り活動も行っております。なお、この9月には50回目の発行を記念し、特集号として発行したところです。

大きな4番目、地域社会への奉仕・連携活動です。その1つ、路傍花壇の管理についてですが、癒しの里にふさわしい景観づくりの一環としまして、町からの委託を受けた路傍



花壇の管理に頑張っております。花の苗を作業部が中心になって育てて、余った苗は子ども会花壇、青少年旅行村管理センター、役場支所等に配布して喜ばれております。

そのほか、野外トイレの清掃委託事業。これは婦人部が年間を通して行っております。そして、集落行事への参加協力。集落で行われますいろいろな行事について、老人クラブは協力を進めております。この時に子ども会とのふれあい活動も実施しております。

大きな5番目は、交流活動のことです。誕生会、忘年会は6月と11月に開催しております。それから、校区老人クラブ交流会というのを行っております。これは、小学校区内に4集落ございますが、その会員たちが集まってグラウンド・ゴルフを楽しみ、そして懇親会で昔のことなどを話し合うという機会にしております。

私たち谷崎会は、集落内最大規模の団体であるという自覚を持って活動しなければならないと考えます。そのためには若手会員の確保が最大の課題であります。もっともっと魅力のある老人クラブとして認知されるような活動を続け、若手会員の積極的な参加を願い、頑張っております。

ありがとうございました。(拍手)